

神道政治連盟推薦

参議院議員 比例代表(全国区) 山谷えり子



「領土問題を考える」

狙われる対馬

「防人の島」として、古くから日本の国防上最前線の島と位置づけられていた長崎県の「対馬」が心配な状況となっております。ここ数年、対馬の領有権を主張する動きが、韓国内で活発化しているのです。平成十七年三月、韓国の慶尚南道馬山市の市議会は、対馬が韓国領であることを宣言する“対馬島の日祭例”を制定し、平成二十年七月には、韓国与野党国会議員五十名が、韓国国会に対馬返還要求決議案を提出しました。

超党派五十七名の国会議員が所属している「日本の領土を守るために行動する議員連盟」(領土議連)の会長として、私はこれまで北方領土、竹島、尖閣諸島といった領土問題に取り組んできましたが、現在は対馬の問題にも取り組んでいます。対馬市長、市議団の方々

とも意見交換を重ね、平成二十年十二月二十日には、亡くなられた中川昭一さんが会長をつとめられていた「真・保守政策研究会」と合同で、対馬を現地視察しました。その視察で、韓国資本が対馬の不動産などを買って進めている現状を目の当たりにしました。海上自衛隊対馬防備隊本部の施設に隣接する土地には、韓国資本のリゾートホテルが建っていました。そのリゾートホテルの中には、平成二年、天皇、皇后両陛下が行幸啓された際に建てられた「行幸記念の碑」もあります。かつての軍港も韓国資本に買われていました。自衛隊独身寮の両隣も韓国資本に買収されていました。一部の政治家とはいえ、領有権の主張を始めた国の資本が、国防上重要な拠点を次々と買い漁っている事実には、不気味なものを感じます。日露戦争の「日本海海戦」は、欧米では「バトル・オブ・ツシマ」と言います。バルチック艦隊を破った海戦は、対馬のすぐ東で行われたのです。帝国海軍の第二艦隊は、対馬から出撃しています。それほど、軍事上重要な拠点だったわけですね。

自民党政権下で行われた、平成二十一年三月六日の予算委員会において、私は河村官房長官から「対馬の(自衛隊増員も検討)の答弁を引き出し、政府は、離島振興を含めた防衛力強化の方向で動いています。しかし、民主党への政権交代が行われたことにより、この動きも不安な状態になっています。

法整備が必要だ

掘削塔、処理施設といったガス田開発に必要な施設整備を一方的に進めました。危機感をもった我々は「領土議連」の会合を急ぎよ開催し、この問題について話し合いました。ジャーナリストの櫻井よしこさんをお招きし現状をお聞きし、外務省、防衛省、内閣府、海上保安庁の各官庁も呼んで事実確認と議論をしました。実態調査を促し、先島諸島、与那国島への防衛力配備について考えていかなければなりません。

鳩山首相は平成二十一年十月、北京で中国の温家宝首相と会談し、「東シナ海を『友愛の海』にしていく」と呼びかけたといひます。友好関係を築くことは大切ですが、相手の理不尽な行動には毅然とした態度で臨まなければなりません。国益を何が何でも守るといふ気概が外交には必要です。

「隣国によって一平方マイルの領土を奪われながら鷹鷹の拳に出ない国は、その他の領土をも奪われていき、ついには全く領土を失って国家として存在することをやめてしまつてある」

ドイツの法学者、イエーリングの言葉です。国民の生命、財産を守ること、主権、領土を守ることは、政治の一番重要な使命です。国民の皆様が安心して生活できる国づくりのため、領土問題に取り組んでまいります。

国会審議の場で私は、安全保障上重要な土地について、外国資本の進出を規制することを検討すべきではないかと訴えました。国境や、安全保障上重要な土地に対する外国資本進出への規制は、諸外国でも多くの国が行っています。韓国、ロシア、ブラジル、ペルー、メキシコといった国々では、国防上重要な地域への外国資本の参入を規制しています。安全保障の観点から、日本もこうした点を考えていく必要があります。実は日本にも大正十四年に制定された「外国人土地法」という法律があり、政令で地域を指定すれば、国防上必要だと政府が認定した土地に対して外国資本の参入を制限できるのです。私は予算委員会で、この法律が今も有効であるとの政府答弁を得たので、政府に対すみやかに実態調査を行い、予防的見地から法整備を進めるよう働きかけていましたが、政権交代によってこの動きも止まっています。

毅然とした姿勢を

近年では、領土だけでなく、海洋資源をめぐる争いも激しくなっています。東シナ海のガス田開発をめぐる争いは、中国と緊張が高まっています。平成二十年六月、東シナ海のガス田開発で、日中共同開発が合意されました。白樺(中国名・春曉)の開発に日本も資本参加することとなり、具体的計画が決まるまで中国は開発を中断することになっていました。しかし、平成二十一年七月、八月にかけて白樺ガス田等に中国船が出入りし、技術者らの住居棟